巨人伝説の考察

── 聖書的伝承とハリー•ポッタ ──

A Consideration on Giants' Legends
── Biblical Traditions and Harry Potter ──

竹　田　伸　一

Shin-ichi TAKEDA

世界各地の神話や民間伝承には異常に大きな体と力を持つ巨人がしばしば登場する。巨人伝説にはいくつかの類型があるが，日本の「だいだらぼっち」のような山や湖などの自然起源を巨人に求めるもの，ギリシャのギガンテスやタイタンのような新しい秩序に抵抗して怒る古神と描くもの，互いに敵対する民族間での憎悪を象徴する存在とするもの，神話的な物語の理論によって誇張，拡大されたものなどがあるが，巨人は往々として否定的な存在として登場している。本稿は巨人に関する伝承を正典，外典，偽典を含めて聖書的伝承から概観し，そのような巨人伝説が現代ファンタジーにどのように転用されているかをハリー•ポッターで例示するものである。

1．巨人の起源

聖書における巨人伝説はまず創世記の 6 章に現れる。

創世記 6 ：1　さて，地上に人が増え始め，娘たちが生まれた。2　神の子らは，人の娘たちが美しいのを見て，おのおの選んだ者を妻にした。3　主は言われた。「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。」こうして，人の一生は百二十年となった。4　当時もその後も，地上にはネフィリムがいた。これは，神の子らが人の娘たちのところに入って産ませた者であり，大昔の名高い英雄たちであった。

口語訳 6 ：4　そのころ，またその後にも，地にネピリムがいた。これは神の子たちが人の娘たちのところにはいって，娘たちに産ませたものである。彼らは昔の勇士であり，有名な人々であった。



ルーベンス「反逆天使の落下」1620年

この記事に登場する「神の子」と「人の娘」に関する解釈は，アダムの二人の息子から出た，敬虔なセツの子孫と神なき一族の系統としてのカインの子孫とする説もあるが，後の聖書やユダヤ教の伝承によると，「神の子ら」を本来は見張り人（watcher）として神から遣わされた天使たちとし，「人の娘たち」を人間の娘たちと解釈するものが有力である。天使たちは人間の娘たちに対して欲望を抱き，彼らと関係を持った。そして，天使と人間の娘の混血として生まれたのが，巨人と考えられるのである。

神は天使たちの堕落を嘆き，人間の寿命を120年に限定している。また，天使たちの堕落に端を発する地上の人間の堕落は最悪の限界状況に達し，ノアの箱舟に象徴される洪水の裁きをもたらすのであった。創世記６章に並行する記事は偽典にいくつか存在する。

ヨベル５：１　人類が地の表に増えはじめ，彼らに娘が生まれたとき，主のみ使いたちは，このヨベルのある年に，彼女らが見た目に美しいことに気づき，自分で相手を選んで結婚した。彼女らは子を産んだが，これが巨人であった。2　暴虐が地上にはびこり，すべて肉なるものは人間から始まって，家畜，獣，鳥，地上を歩くすべてのものに至るまで，その道と定めを退廃させ，共食いを始めた。暴虐は地上にはびこり，人間どもはだれもかれも四六時中まったくろくでもないことばかり考えていた。

Ｉエノク６：1 そのころ人の子らが数を増していくと，彼らに見目麗しい美人の娘たちが生まれた。2　これを見た御使いたち，天の子たちは彼女らに魅せられ，「さて，さて，あの人の子らの中からおのおの嫁を選び，子をもうけようではないか」と，言いかわした。

７：１　彼らは妻をめとり，各人一人ずつ女を選びこれと関係を持ち，交わりはじめた。2　彼女らははらんで，背丈がいずれも3000キュビトというとてつもない巨人を生んだ。3　彼らは人間の労苦の実を食い尽くしてしまい，人間はもはや彼らを養うことができなくなってしまった。4　そこで巨人たちは人間を食わんものと人間に目を向けた。5　彼らは鳥や獣，地を這う生き物や魚に対して罪を犯し，互いの肉を食らいあい，血をすすりはじめた。6　そのとき，血はこの狼藉ものたちに対して非をならした。

９：８　彼らは連れ立って人の娘らところに通い，これと，すなわちこの女たちと寝て身を汚し，彼女らにこれらの罪の数々を明かした。9　女たちは巨人を産み，こうして全地は流血と暴虐にあふれた。

２．巨人の用語

いくつかの偽典によると，巨人は三つの階級，段階に分かれるとされており，最初の巨人は3000キュビトに達する怪物とされ（Ｉエノク２：７），それらがネフィリムを生み，ネフィリムがエルヨを生んだと記されている（ヨベル７：22）。これらの三段階は創世記６章４節のヘブライ語の原文のネフィリム（נְּפִלִים），ギッボリーム（גִּבֹּרִים），アネシェー・ハッシェーム（אַנְשֵׁי הַשֵּׁם）に対応している。

ヨベル７：21　この三つのゆえに地上に洪水が起こったのである。寝ずの番人たちが彼らに与えられたところのさばきの掟を離れて人の娘らのあとを追いかけ，自分で選んだものの中から妻をめとり，汚れの発端を開いたあの淫行のゆえにである。22　彼らは子としてネピリムを産み，これがみな仲たがいをして共食いをし，エルバハは

ネピルをネピルはエルヨを，エルヨは人類を，人類はお互いを殺し合った。23　誰もが自分を（悪に）売り渡して暴虐を行い，おびただしい血を流した。地は暴虐に満ちた。

Jubilees 7：22　And they begat sons the Naphidim, and they were all unlike, and they devoured one another：and the Giants slew the Naphil（Naphelim），and the 23 Naphil slew the Eljo（Elioud），and the Eljo mankind, and one man another.

また，ユダヤ教の律法学者によると，これらの巨人には次のような７つの名前があると考えられる。

⑴ギッボリーム（ גִּבֹּרִים ）　これは「巨大な，強い」という言葉に由来し，脳だけでも18キュビトの大きさもあったと考えられ，後に勇士と訳されるようになる。

⑵ネフィリム（ נְפִילִים ）　これは「落ちる」という言葉に由来し，世界を堕落させ，自ら堕落したことに由来する。

⑶レファイム（ רְפָאִים ）　これは「いやす」という言葉から派生するが，他の者を弱くし，恐れさせたことが由来と考えられる。用語としては旧約聖書に多く登場する。レファイムは複数形で，単数はラファ（ רָפָה ）。パレスチナの先住民，巨人として知られるが，同時に亡霊，死霊を意味する言葉である。

⑷アナク（アナキム　עֲנָקִים）　これは「長い首」という言葉に由来し，彼らが長い首輪をはめたことに由来する。

⑸エミム（ אֵימִים ）　これは「恐怖」という言葉に由来する。

⑹ザムズミム（ זַמְזֻמִּים ）　これは恐怖を抱かせる激しい策士であることに由来する。ズジム（放浪する　זוּזִים ）と同等とも取られることがある。

⑺アビム（ עַוִּים ）　これは「破壊」を意味する言葉に由来する。一説では「蛇」との関連をあげる場合もある。

民数記13：32　「我々が偵察して来た土地は，そこに住み着こうとする者を食い尽くすような土地だ。我々が見た民は皆，巨人だった。33　そこで我々が見たのは，ネフィリムなのだ。アナク人はネフィリムの出なのだ。我々は，自分がいなごのように小さく見えたし，彼らの目にもそう見えたにちがいない。」

申命記２：10　かつて，そこにはエミム人が住んでいた。強力で数も多く，アナク人のように背の高い民であった。11　彼らもアナク人と同様に，レファイム人であると見なされているが，モアブの人々は彼らをエミム人と呼んでいた。

２：20　ここも，レファイム人の土地と見なされている。レファイム人はかつてここに住んでいた。アンモン人は彼らをザムズミム人と呼んでいた。

２：23 また，カフトル島から来たカフトル人はガザとその近くの村落に住んでいたアビム人を滅ぼし，代わってそこに住んだ。

３．巨人のサイズ

巨人のサイズに関してはＩエノク書では最初の巨人は3000キュビト（1350m）という巨大な数字を挙げている。

Ｉエノク７：１　彼らは妻をめとり，各人一人ずつ女を選びこれと関係を持ち，交わりはじめた。２　彼女らははらんで，背丈がいずれも3000キュビトというとてつもな

い巨人を生んだ。

ヨベル書では一般的な巨人の大きさを7から10キュビトとし，３メートルから4.5メートルほどとしている。

ヨベル29：９　それはレパイムの土地であり，身長が10キュビト，９キュビト，８キュビト，７キュビトまであるレパイムという巨人がそこで生まれたからである。

ユダヤ教の伝承では，最後のレファイム人，バシャンの王オグは，23330エル（10500m）で，ノアの洪水も体の半分までにしか達しなかった。彼は山を持ち上げてイスラエルと戦おうとしたが，神が遣わした鳥（虫の場合もある）のために，持ち上げた山を頭上に落としたために，3600才で死んだとされる。しかし，聖書正典の申命記ではオグ王の棺が９×4.5アンマとされているので，身長は４メートル足らずだったと推定される。

申命記３：１　我々は転じてバシャンに至る道を上って行くと，バシャンの王オグは全軍を率いて出撃し，エドレイで我々を迎え撃とうとした。２　主はわたしに言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは彼とその全軍，その国をあなたの手に渡した。ヘシュボンに住むアモリ人の王シホンにしたように，彼にも行いなさい。」３　我々の神，主はバシャンの王オグをはじめ，その全軍を我々の手に渡されたので，我々はオグを撃ち殺し，ついに一人も残さなかった。

申命記３：11　バシャンの王オグは，レファイム人の唯一の生き残りであった。彼の棺は鉄で作られており，アンモンの人々のラバに保存されているが，基準のアンマで長さ九アンマ，幅四アンマもあった。

ダビデと戦った巨人ゴリアテの身長は6.5アンマ（292.5cm）とされるので，３メートルほどである。

サムエル記上17：４　ペリシテの陣地から一人の戦士が進み出た。その名をゴリアトといい，ガト出身で，背丈は六アンマ半，５頭に青銅の兜をかぶり，身には青銅五千シェケルの重さのあるうろことじの鎧を着，６足には青銅のすね当てを着け，肩に青銅の投げ槍を背負っていた。

様々な伝承を総合すると，巨人はいにしえほど巨大であったが，ノアの洪水でオグ以外はすべて滅ぼされ，わずかに残ったその子孫はやがて代を追うごとに小さくなってゆき，普通の人間たちに滅ぼされることになる。最初の巨人は3000キュビトと誇張されているが，一般的には３，４メートルとされ，最終的には3メートル足らずとなっている。この値は現在の最も背の高い人間の値に近いものである。現在のギネスブックで世界一身長が高い人は236cmそうだが，実際には254cmの人がいるらしく，記録では1940年に亡くなった人で272cmの人がいたそうである。

４．巨人の性格と結末

正典である旧約聖書では，特に巨人の運命については明確には触れられていない。しかし，正典に告ぐ権威を認められる外典（続編）では洪水との関連で，巨人の滅亡について触れられている。

創世記６：４　当時もその後も，地上にはネフィリムがいた。これは，神の子らが人の娘たちのところに入って産ませた者であり，大昔の名高い英雄たちであった。５　主は，地上に人の悪が増し，常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって，６　地上に人を造ったことを後悔し，

心を痛められた。７　主は言われた。「わたしは人を創造したが，これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく，家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」

知恵の書14：６　その昔，高慢な巨人たちが滅びたとき，世の希望であったあの人は木の舟で難を逃れ，御手に導かれ，後に続く世代の種を世に残した。

シラ書16：７　主は，いにしえの巨人たちを容赦されなかった。彼らは，その力を誇って，反逆したからである。

バルク３：26　そこに，背が高く，昔から武勇で名高い巨人たちが生まれた。27　しかし，神は彼らに目を留めず，知識の道を示すことなさらなかった。28　そのため彼らは思慮に欠けて滅び，その愚かさのゆえに滅んだ。



ミケランジェロ　「洪水」　1508－9年

先に示したように巨人はその凶暴性のゆえに，共食いし，人間を含め，多くの生き物の血を流したゆえに，神の怒りを買い，洪水で滅んでしまった。流血と血を食べることの禁止は巨人の暴力性の結果と類推される。また，それだけにとどまらず，巨人の霊は死霊，悪霊となっていくのであった。Ｉエノク15章では滅んだ巨人たちの死霊が悪霊の起源であることが示されている。

創世記９：４　ただし，肉は命である血を含んだまま食べてはならない。５　また，あなたたちの命である血が流された場合，わたしは賠償を要求する。いかなる獣からも要求する。人間どうしの血については，人間から人間の命を賠償として要求する。６　人の血を流す者は人によって自分の血を流される。人は神にかたどって造られたからだ。

Ｉエノク15：８　ところで，霊と肉から生まれた巨人たちは，地上では悪霊と呼ばれ，彼らの住居は地上にある。９　悪霊が彼らの体から出た。彼らは人間から創造され，彼らの最初の起源と土台は聖なる寝ずの番人であるから，地上では悪霊であり，悪霊と呼ばれるのである。11　巨人たちの霊は苦しめ，暴力をふるい，腐敗堕落し，争い，地上で破壊し，問題を引き起こし，何も食せず，それでいて飢え渇きを覚え，足元が危なくなる。

巨人を意味するレファイム（ רְפָאִים ）という言葉は，死霊，悪霊を示す言葉となっていく。

詩篇88：11　あなたが死者に対して驚くべき御業をなさったり，死霊が起き上がって，あなたに感謝したりすることがあるでしょうか。

箴言２：18　彼女の家は死へ落ち込んで行き，その道は死霊の国へ向かっている。



ヒエロニムス・ボッシュ　「アララト山上のノアの箱舟」

5．ダビデとゴリアテ

ダビデの巨人ゴリアテへの勝利は，有名な英雄神話だが，ある意味で旧約聖書での一つのクライマックスとなっている。それは敵対民族に対する勝利であると同時に，異教に対する神ヤハウェを信ずるイスラエルの宗教の勝利を意味した。

サムエル記上17：4　ペリシテの陣地から一人の戦士が進み出た。その名をゴリアトといい，ガト出身で，背丈は六アンマ半，5　頭に青銅の兜をかぶり，身には青銅五千シェケルの重さのあるうろことじの鎧を着，6　足には青銅のすね当てを着け，肩に青銅の投げ槍を背負っていた。7　槍の柄は機織りの巻き棒のように太く，穂先は鉄六百シェケルもあり，彼の前には，盾持ちがいた。8　ゴリアトは立ちはだかり，イスラエルの戦列に向かって呼ばわった。「どうしてお前たちは，戦列を整えて出て来るのか。わたしはペリシテ人，お前たちはサウルの家臣。一人を選んで，わたしの方へ下りて来させよ。9　その者にわたしと戦う力があって，もしわたしを討ち取るようなことがあれば，我々はお前たちの奴隷となろう。だが，わたしが勝ってその者を討ち取ったら，お前たちが奴隷となって我々に仕えるのだ。」10　このペリシテ人は続けて言った。「今日，わたしはイスラエルの戦列に挑戦する。相手を一人出せ。一騎打ちだ。」11　サウルとイスラエルの全軍は，このペリシテ人の言葉を聞いて恐れおののいた。

ダビデはそれらを脱ぎ去り，40　自分の杖を手に取ると，川岸から滑らかな石を五つ選び，身に着けていた羊飼いの投石袋に入れ，石投げ紐を手にして，あのペリシテ人に向かって行った。41　ペリシテ人は，盾持ちを先に立て，ダビデに近づいて来た。42　彼は見渡し，ダビデを認め，ダビデが血色の良い，姿の美しい少年だったので，侮った。43　このペリシテ人はダビデに言った。「わたしは犬か。杖を持って向かって来るのか。」そして，自分の神々によってダビデを呪い，44　更にダビデにこう言った。「さあ，来い。お前の肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」45　だが，ダビデもこのペリシテ人に言った。「お前は剣や槍や投げ槍でわたしに向かって来るが，わたしはお前が挑戦したイスラエルの戦列の神，万軍の主の名によってお前に立ち向かう。46　今日，主はお前をわたしの手に引き渡される。わたしは，お前を討ち，お前の首をはね，今日，ペリシテ軍のしかばねを空の鳥と地の獣に与えよう。全地はイスラエルに神がいますことを認めるだろう。47　主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを，ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ。主はお前たちを我々の手に渡される。」48　ペリシテ人は身構え，ダビデに近づいて来た。ダビデも急ぎ，ペリシテ人に立ち向



ベリーニ「ダビデ」1623-24年



ティッツァーノ「ダビデとゴリアテ」1540年



アンドレア　「ダビデ」　1473-1475年

かうため戦いの場に走った。49　ダビデは袋に手を入れて小石を取り出すと，石投げ紐を使って飛ばし，ペリシテ人の額を撃った。石はペリシテ人の額に食い込み，彼はうつ伏せに倒れた。50　ダビデは石投げ紐と石一つでこのペリシテ人に勝ち，彼を撃ち殺した。ダビデの手には剣もなかった。51　ダビデは走り寄って，そのペリシテ人の上にまたがると，ペリシテ人の剣を取り，さやから引き抜いてとどめを刺し，首を切り落とした。

この後ダビデは王となり，その治世で巨人であるラファの子孫を絶滅する。ラファはレファイムの単数形である。

サムエル記下21：16　ラファの子孫の一人イシュビ・ベノブは，三百シェケルの重さの青銅の槍を持ち，新しい帯を付けて，ダビデを討つ，と言った。17　しかし，ツェルヤの子アビシャイは，ダビデを助けてこのペリシテ人を打ち殺した。それ以来，ダビデの家来たちはダビデに誓わせた。「以後，我々と共に戦いに出てはなりません。イスラエルの灯を消さぬよう心掛けてください。」18　その後，ゴブの地で，再びペリシテ人との戦いがあった。このときは，フシャ人シベカイがラファの子孫の一人サフを打ち殺した。19　ゴブで，またペリシテ人との戦いがあったとき，ベツレヘム出身のヤアレ・オルギムの子エルハナンが，ガト人ゴリアトを打ち殺した。ゴリアトの槍の柄は機織りの巻き棒ほどもあった。20別の戦いがガトでもあった。ラファの子孫で，手足の指が六本ずつ，合わせて二十四本ある巨人が出て来て，21　イスラエルを辱めたが，ダビデの兄弟シムアの子ヨナタンが彼を討ち取った。22　これら四人はガトにいたラファの子孫で，ダビデとその家

臣の手によって倒された。

6．巨人の解釈

巨人には一体どのような意味があるのだろうか。序論でいくつかの類型を取り上げたが，聖書的伝承に関する限り，敵対する民族間での憎悪が第一に考えられる。確かに大きな体の人間がいたのであろうが，基本的には敵に対する恐怖，劣等感が敵を巨大視し，憎悪，差別，自己正当化が巨人（敵）を滅ぼすことに至ったのであろう。その意味で旧約聖書と人間の限界は「隣人を愛し，敵を憎め」というラビの教えに要約できるかもしれない。しかし，イエスはそれを超越する教えを語るのであった。

マタイ５：43　あなたがたも聞いているとおり，『隣人を愛し，敵を憎め』と命じられている。44　しかし，わたしは言っておく。敵を愛し，自分を迫害する者のために祈りなさい。

敵を愛せという教えはイエスの十字架で実践，実現され，実際に敵であるローマ人の隊長がイエスを神の子と信じる信仰告白に至っている。

マルコ15：39　百人隊長がイエスの方を向いて，そばに立っていた。そして，イエスがこのように息を引き取られたのを見て，「本当に，この人は神の子だった」と言った。



ゴヤ「巨人」1808年

キリスト教信仰においては，キリストの十字架と復活による福音の結果，敵対していた異民族間においても兄弟姉妹として新しい神の家族人間関係が築かれるのである。その意味で他者を巨人と想定する敵意や憎悪は，キリストの十字架において乗り越えられるのである。

エフェソ２：11　だから，心に留めておきなさい。あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり，いわゆる手による割礼を身に受けている人々からは，割礼のない者と呼ばれていました。12　また，そのころは，キリストとかかわりなく，イスラエルの民に属さず，約束を含む契約と関係なく，この世の中で希望を持たず，神を知らずに生きていました。13　しかしあなたがたは，以前は遠く離れていたが，今や，キリスト・イエスにおいて，キリストの血によって近い者となったのです。14　実に，キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし，御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し，15　規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは，双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し，16十字架を通して，両者を一つの体として神と和解させ，十字架によって敵意を滅ぼされました。17　キリストはおいでになり，遠く離れているあなたがたにも，また，近くにいる人々にも，平和の福音を告げ知らせられました。18　それで，このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて，御父に近づくことができるのです。19　従って，あなたがたはもはや，外国人でも寄留者でもなく，聖なる民に属する者，神の家族であり，20　使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり，21

キリストにおいて，この建物全体は組み合わされて成長し，主における聖なる神殿となります。22　キリストにおいて，あなたがたも共に建てられ，霊の働きによって神の住まいとなるのです。

7．ファンタジーへの転用

ハリー・ポッターでの巨人の扱いは聖書的伝承と同じように，第5巻で巨人の殺し合いが報告さるように，その凶暴性ゆえに恐怖と差別と敵意を招く存在である。

第4巻下110頁

「だけど……ハリー，連中は，巨人は凶暴なんだ。ハグリッドも言ってたけど，そういう性質なんだ。トロールと同じで……とにかく殺すことが好きでさ。それはみんな知っている。ただ，もうイギリスにはいないけど」

第4巻下123頁

血に飢えた凶暴な巨人たちは，前世紀に仲間内の戦争で互いに殺し合い，絶滅寸前となった。生き残ったほんの一握りの巨人たちは，「名前を言ってはいけないあの人」に与し，恐怖支配時代に起きたマグル大量殺戮事件の中でも最悪事件にかかわっている。

第5巻下16頁

「六メートルぐれえ」はグリッドがこともなげに言った。「おおきいやつは七、八メートルあったかもしれん」

ハグリッドが悲しそうに言った。「八十人が残った。一時期はたくさんいた。世界中から何百ちゅう種族が集まったに違えねえ。だが、何年もの間に死に絶えていった。もちろん、魔法使いが殺したものも少しはある。けんど、たいがいはお互いに殺しあったのよ。……」

しかし，著者J.K.ローリングは巨人の問題を人間と巨人の混血，ハグリッドを登場させることで，乗り越えようとしている。ハグリッドは普通の人間の倍ほどの身長の巨人だが，愛情深い存在である。



ハグリッドのフィギュア

参考文献

Theological Dictionary of the New Testament, Kittel ed , Stuttgart, 1967
Jewish Encyclopedia, 1901-1906
B.ウォーカー，『神話・伝承事典』，大修館書店，1988年。
『世界宗教大事典』，平凡社，1991年。
『聖書外典偽典4』，教文館，1975年。
J.K.ローリング，『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』，静山社，2002年。
『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』，静山社，2004年。